12 高齢女性の夜間頻尿に対する漢方治療の経験

NINOMIYA LADIES CLINIC
二宮　典子

要旨
【症例１】71歳女性。痩せ型。既往歴に特記すべき異常なし。夜間に2時間おきに尿に起きることを主訴として当院を受診した。受診時に顔面浮腫があるような印象を受けたが、内科の検査ではレントゲンや心電図に異常を認めないと診断されていた。生活指導とともに潜在的心不全によるむくみの病態に注目し、木防已湯を処方したところ、夜間尿回数が激減した。
【症例２】74歳女性。痩せ型。既往歴、関節リウマチ。難治性過活動膀胱のためボトックス膀胱内注射を3ヶ月前に行なった。日中の頻尿は改善し、切迫性失禁は改善したが、夜間にトイレで起床することに不満を訴えていた。木防已湯を処方し、2ヶ月で症状が改善したため廃薬となった。
【症例３】85歳女性。体格は普通。既往歴、糖尿病。過活動膀胱と夜間多尿の治療中であり、ソリフェナシン、牛車腎気丸、フロセミド、アログリプチンの処方中であった。夜間の頻尿が悪化し、2時間おきに起床すると訴え、診察時に普段よりも強い顔の浮腫と足の浮腫を認めたため木防已湯を追加処方したところ2ヶ月後には症状が改善し、顔や足の所見も改善した。
【症例４】62歳女性。体格は普通。既往に甲状腺機能低下症、心筋症、高血圧。内科にて加療中であった。夜間頻尿と日中の尿量低下を訴え当院受診。受診時は顔面の浮腫あり。過去に内科で利尿剤を処方されたことがあったが、急激な降圧作用のために中止となっているエピソードあり。木防已湯の処方開始し、日中の尿量増加と夜間尿回数の減少を認めた。1年間の継続投与で症状が安定したため当院終診となった。
【考察】
夜間頻尿とは、睡眠中にトイレのために1回以上起床する必要がある状態である。夜間頻尿の患者は泌尿器科を受診することが多いが、過活動膀胱の治療薬である抗コリン剤やβ３刺激薬による効果は限定的である。夜間頻尿は、下部尿路だけが原因ではなく、加齢、高血圧、筋力低下、睡眠時の抗利尿ホルモンの分泌低下、浮腫、心不全、睡眠障害、睡眠時無呼吸症候群、薬剤性など、全身の様々な影響によって生じるからである。そのため、夜間頻尿に対する治療は難渋することも多い。
夜間頻尿は漢方では腎虚の症状と捉えられ、補腎剤である牛車腎気丸や八味地黄丸などの処方を選択されることが多い。しかし、体力の低下した女性では補腎剤が適さない症例も存在するため、患者の特性に応じた漢方の選択が必要となる。
木防已湯は体力の低下したむくみに効果のある漢方だが、全身の水分を調整する作用があるため治療が難渋しがちな高齢者の夜間頻尿に効果が期待できる。木防已湯の処方を検討する患者の特徴として、皮膚が青白い、皮膚に厚みがあり乾燥を認める、筋力がない、冷えがある、下肢だけではなく顔や手にもむくみを認める、などが挙げられる。
【まとめ】
潜在的に心機能が低下し浮腫があるために夜間頻尿を訴える患者が存在する。このような患者には木防已湯が有効である可能性が示唆された。